

台風対策

台風への備えは、事前の対策が重要です。暴風域に入る約6時間前に発表される暴風警報が一つの目安となります。暴風警報が発表された時は、屋内や屋外の必要な対策を取りましょう。なお、暴風警報が発表される前でも、強風が吹く場合がありますので、注意してください。

生活安全課 ☎(36) 50500

屋根

▽瓦にひび割れやズレがあるなど強風で吹き飛ばされたり、雨漏りの原因に。破損した物などは取り替え、ズレているものは事前に修理する



▽トタンにめくれやはがれがあると、強風にあおられて飛んだりするなど、他に被害を与え

雨どい・雨戸

る可能性も。事前にくぎなどで応急措置を。くぎの頭の周りにペンキを塗ると水の染み込みを防ぐことも可能

▽雨どいに落ち葉や土砂が詰まっていれば取り除き、事前に水はけをよくする。雨どいの受け金具がゆるんでいたら元の位置にしっかりと固定する

▽雨戸にガタツキやゆるみがあれば修理する

外壁

▽モルタルの壁に亀裂や、板壁に腐れや浮きがある場合は修理する



窓ガラス

▽雨戸や格子のない窓ガラスは、強風の飛散物で割れないように粘着テープなどで補強す

排水溝・ます

▽落ち葉や土砂などを取り除き、水はけをよくする



る。外側から板でふさぐなどの処置も効果がある

片付け

▽鉢植えや物干しざおなど、強風で飛んでいく恐れがあるものは室内に収納する



ブロック塀

▽ひび割れや破損箇所がある場合は修理する



浸水対策

▽低い所に置いているものは、高い所へ移動する

屋内

▽停電に備え、懐中電灯や携帯ラジオなどを準備する
▽断水に備え、飲料水を確保する
▽避難に備え、貴重品などの非常持出品を準備する



避難

▽乳幼児や高齢者、病人、障がいのある人は、安全な場所(部屋)で過ごし、避難方法や避難所を日ごろから確認する



●夏から秋は潮位が高い
台風が日本によく接近する8月から9月は、平均潮位が1年のうちで最も高い時期です。この時期に大潮の満潮時と台風との接近が重なると、高潮による浸水の可能性が高くなります。

典型的な過去の事例としては、1959(昭和34)年9月に本州を縦断した「伊勢湾台風」があります。3・5メートル以上の高潮が観測され、風水害の被害としては明治以降最大の5098人の犠牲者を出しました。

備えておくと便利なもの

表1

チェック	
災害が起きたときにすぐ役立つもの	
懐中電灯、乾電池	
携帯電話充電キット	
ラジオ、携帯テレビ	
カセットコンロ、ガスボンベ	
トイレットペーパー、ティッシュペーパー、ウェットティッシュ	
キッチン用ラップ、アルミホイル	
食器・衣類用洗剤、石けん	
シャンプー、リンスなど衛生品、生理用品	
ビニール袋(大・小)、タオル	
多機能ナイフ、軍手など	
ばんそうこう、ガーゼ、常備薬(胃腸薬、持病の薬、痛み止めなど)	
災害時の食料品	
ミネラルウォーター、ペットボトル飲料など	
米、乾麺類、乾パン、シリアル(穀物の加工食品)など	
栄養補助食品(ゼリー状栄養食品、ビタミン剤など)	
インスタント食品、缶詰、粉末スープ	
菓子類	
感染症(新型インフルエンザなど)予防に便利なもの	
マスク、消毒用アルコール	
消毒効果のある塩素系漂白剤	
体温計	
水枕、氷枕、冷却シート	

*乳幼児や高齢者のいる家庭では、紙おむつなど各家庭の状況にあったものを用意しておきましょう